京
7
50

別13
58
6

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58

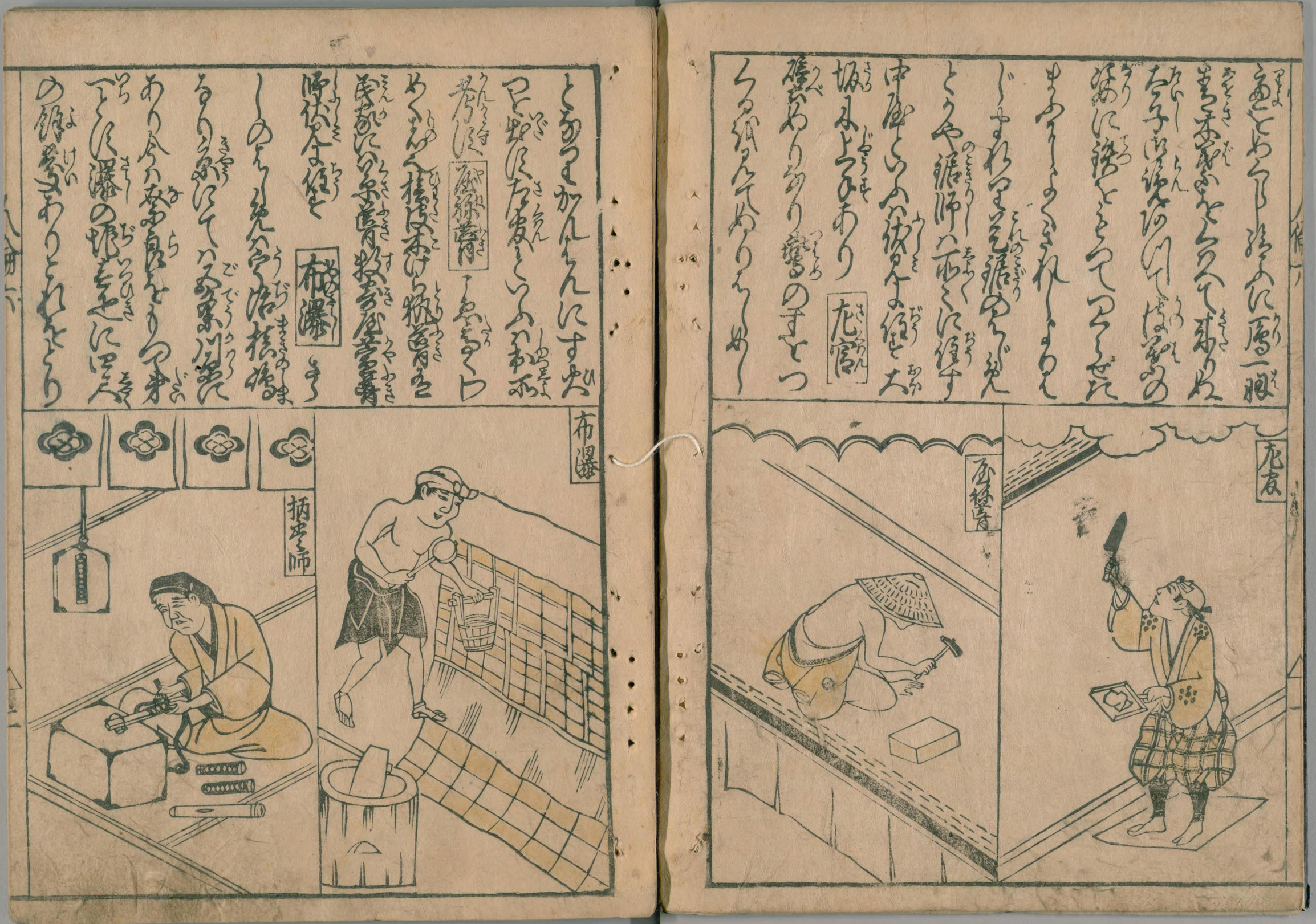
ガラス使用

伊達文庫

紀原家

故紙原芳楚紙

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58　ガラス使用



とうとうとかんたんにすべ
つとぬけたるとうとうとかんか
[illegible]
[illegible]
[illegible]

てんとうとよび代をとるに安かりしかるを
小紋染の柄に表をかくとて
ゆかりの所ゆかりの柄あるを
分てゆうあくあり

天秤

塩もりのうとよび
代十つゝ又は十二文より外に
あるの所塩与三郎池
与十郎松原宗所与三郎
塩八幡新にあり代九文の
十文分相違るとなり

橋場花川戸
白髭町三所同じあり又坂
本町二丁目新堀一組代六
文又百目分相違して
代十文あり

結物師

結と結ぶ一切の
物と結ぶる又は結磐
と結ぶる三業全有之
代

焼師

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58
ガラス使用

ものかきそめ大書の山の金と
ゝ山の作人の人の八枚
接ぎとりこまとゝやまつて
弘法の四ぶ筆接といてそと
紫ふし接師一条松下町青
蓮寺山辻子上鍋新所に
池上九十中鴻和泉宗町二条
上九十人貫流源兵衛
松村周幡屋町下にあり
後藤にいすくう孫の三郎
しらの水ふ振と合て磯

の粉をまゝ梅酢にて
くるり

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58
ガラス使用

たり師石摺をとり表へ
れんりゝ師の今の板木の
板い名猫とりのもの
りとりや出地板木屋出水
通丸之系板木師のとや
柳之屋場へ出こやう動之系
ありり

張り師

角丸の系
女文し紙とう紙と帯にり
ろはいのとりとり白紙
行れの系をと造りとり
時のとる孫行の孫立れ

編笠

秤師

表紙屋

書本板木白紙
くとかの屋とりとけ
とりりとり一枚紙のと
中法とりとり表紙
いのとり

秤師

賀漢名
子きりのとり米世とり
俗の秤と俗り少の秤
師と定のとり京秤師名
四五二京の書や所りの俗代四
米酒屋屋代二女下屋
人秤と重をる具とい

指物師

板木師

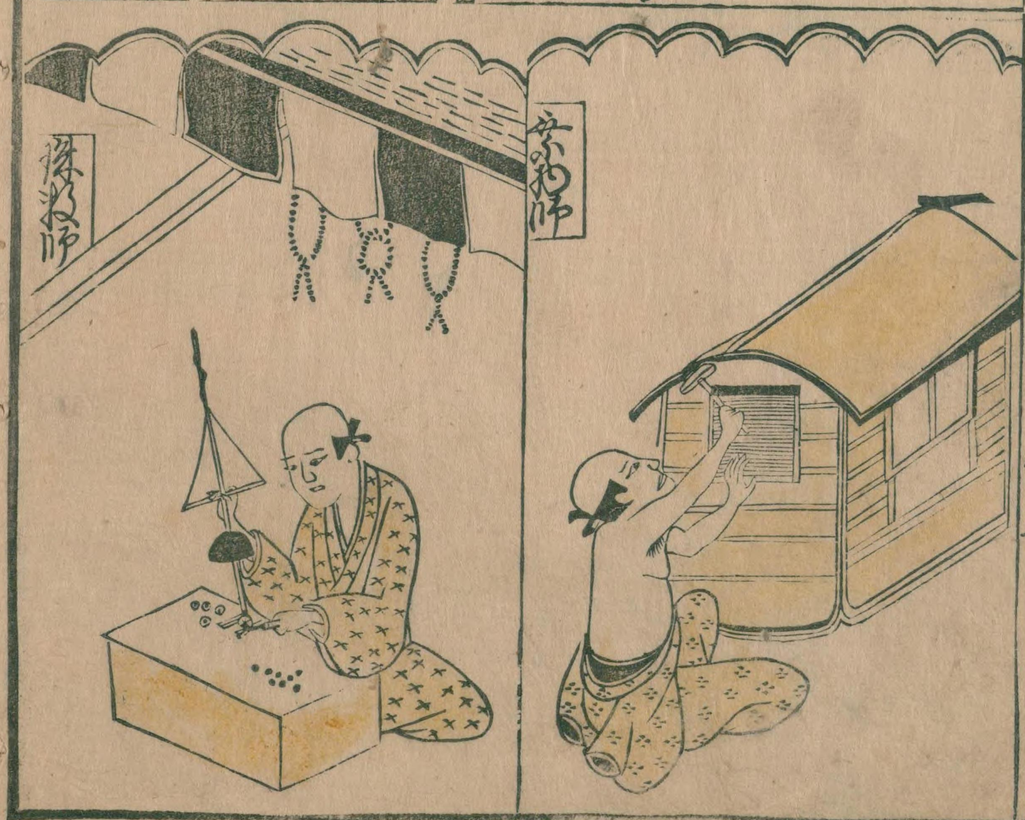
日本にて九いてんぐ[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]

編笠師

[illegible]

指物師

一切の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]師

男女の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

簾師

みいどの系譜の格式
稲荷の八坂祇園より持来
しめのくるや鄙沿と初一切
の旅和師そを月毛大坂天
満ゆいご所より法国入出
とそん

水壷師

水壷い紙五
世より伝り法五の六和の東小
ゑ壷あり生水にいむし
ゆ負てこれしてい沸へう
ちそ紙の五戒なり紙そい
布袋へ今鳥の尾と作り

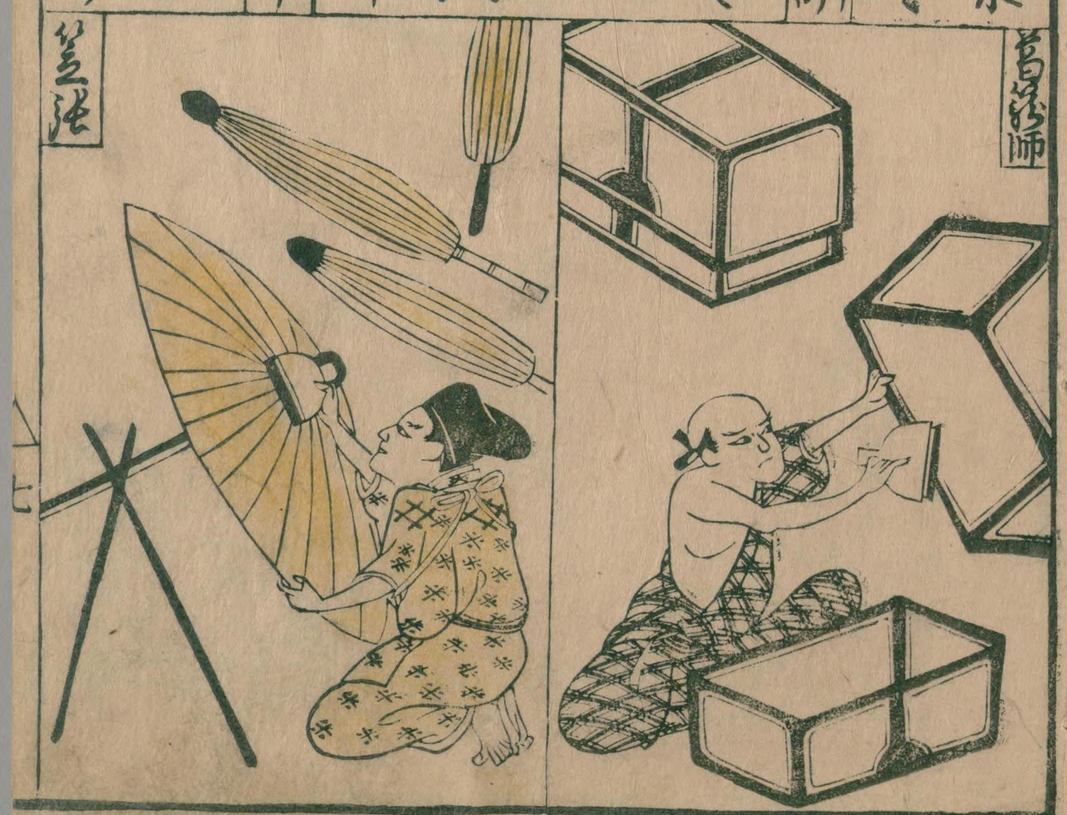
るの八秀吉公ゑ簾国より水
壷俗と国へして来ゆつとそ
子孫今小大坂ゆ住人

墨師

奈良良福寺の信二孫惰と
いへい紙おれ焼物の油煙と
ゆつてにてりしそれと
ゆうひて奈良油煙と号へ
ゑ京絞和と紙ゆ
て国ゆとつくなり

京絞師

京絞并業入ゆそと造新
堅地弱地の国利入事なり



国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58
ガラス使用

下ごしらえ

[illegible]師

を江戸表[illegible]なり[illegible]出を
宝所迄一条のとそれを[illegible]

[illegible]漉

角ばりてそれより
と成れよりはじめ[illegible]
うらにそれをとらんとて
[illegible]
又日陽のうらに張とうろ
[illegible]小咒のあるうらに
[illegible]

[illegible]師

[illegible]

紙すき

[illegible]板とりて[illegible]漉
[illegible]代[illegible]行とひて[illegible]
[illegible]
[illegible]師と[illegible]
つら[illegible]水[illegible]

[illegible]師

[illegible]
推古天皇[illegible]
や京[illegible]師は小流行や[illegible]
丁[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]七分代[illegible]分[illegible]

[illegible]師

[illegible]師

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58　ガラス使用

義人傳

紙子師　紙衣を作る

紙これと造るなり

硯師　硯は文房の

眼と為と海内智者と

とや伝国もの多くあつて

ほうろくは石門を作る

みあり家硯師ありこれと

唐硯ありこれ雄石あり石濃

此時命此時ありてしらべ

くやそれりまおい後ゆて

いりのはてありとこ

羽織師

くとりれ伝を猪皮袋を

伝ると羽織やく皮作

皮猪はたらたる殺国より波

朝医王と下沙門あり紫

いるあすく皮安あれり王を

とくとあて后とあるく

人の王子と出生后の云家

はを廉の廉王なりて

て云の王子の皮班を廉

毛のとそとかくれて

その猪と作ると日の

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58　ガラス使用

有家ハむしろいとなんれ男子大
級の長束をさしてうりと
中世よりうりてを油と略
して有家と名付しも
昭和蔵師　庶民の場作氏
とりもん東れ拍子もん
しあり俗まりと日本にて八
紫神を宝れ代なあり
林裏みと師家務行家
町下ル丁和泉屋行家
清邦国家馬氏あり

雑品の蔵ハ伏見ふもれと数ろ又作与蔵糸ハ上ル
中京糸清方京橋一丁目名人
これとつくも但紙漉師鞘漉師
根とをいて粉とるに荷紙師
とりつくこれとるに命の拍拍
の拍てこれとつく
漉蔵る茅年あり

水引師　拍方え拍小出てこれと
合羽師　合羽茅毎度紙
これ桐油と引に柳る場毎度
あり

白粉師　糸作勢場ハ
紙ありわるいハ紙をむして
病ものいろ紙よりありして
病人家ありてをいとや

一切漉物師
金粉師　金
染泥師

臘燭掛　らうそくとうろう燭うろうとの臘へ金漆を
塗りとしたるものをかけてとやとしてそれと
掛ろうろ木にらう燭うけうろうよりらうをかけてする
なり

業繼師　落髪火葬火葬木撥木綿とりて掛ろ
掛一切ことと掛ろ東洞院松原上ル丁大仏大坂人天満ろ
住ス

鞠裝束師　蔦布絹問よりこれとりてと稽ろ
四条草紙ちゆう西あり山草潔師あり密師
外ろあり水干ハ衣冠ハ狩衣ハ直衣ハ袴ハ直垂ハ
袈裟師

寺塔仏師　木並厨子に格とつけ格とたて造ろ
とあとらつく仏外少仏拵仏造これとらあ形ろ
住ス

小刀磨　うすの目切張の目切張の目たてハ二ツハ金漆ごと

張治　張治之和俗語てら
ちとしもと天四神息治
ものう

刀張治　刀張治法出よ名ある
しに来よてハ日ヶ張治
越近伊賀屯茨木金乙
和泉屯金道乙江屯源
久道丹波屯吉道越中屯
四條信濃屯住吉行道
菊の御紋と流よ切れ

絶張治　文珠四郎七重
七丁張治　伊賀屯吉夏

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58　ガラス使用

摂津国長庚　**摂色要**

小刀鞘治仰者ハ食義稿

但食義　**小刀投刺刀**

東山伯理忠義平理忠大

和右伝山城忠義平氏所

所ゝよりあり刀拵ハ小刀を

ゝまり今　**琴師**　琴のお

ゝりハ家ゝ所ゝ所ゝよりおゝ

す琴琵琶三味線同様

室町一条上ル長門屋庄兵衛

上ル上ル所ゝ所ゝ所ゝ西

琵琶ハ東洞院仏光寺上ル所

古田門記　**弓師**　弓我

物ゝて八幡切石文長忠退

治の石河八百蔵の御弁を

勅諚仕ゝて楽の弓よ

りこの矢ゝて敵をうつほ

しゝゝゝゝ所松原ち

下ゝあり中ゝ同西

仏具師　ゝゝかゝとゝて仏具

ゝゝ鳳凰ゝ金仏蒲鉾絶

業渇ゝゝゝゝゝと書ゝ

鞘治

仏具師

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58　ガラス使用

錫師

錫弘とん

唐紙師

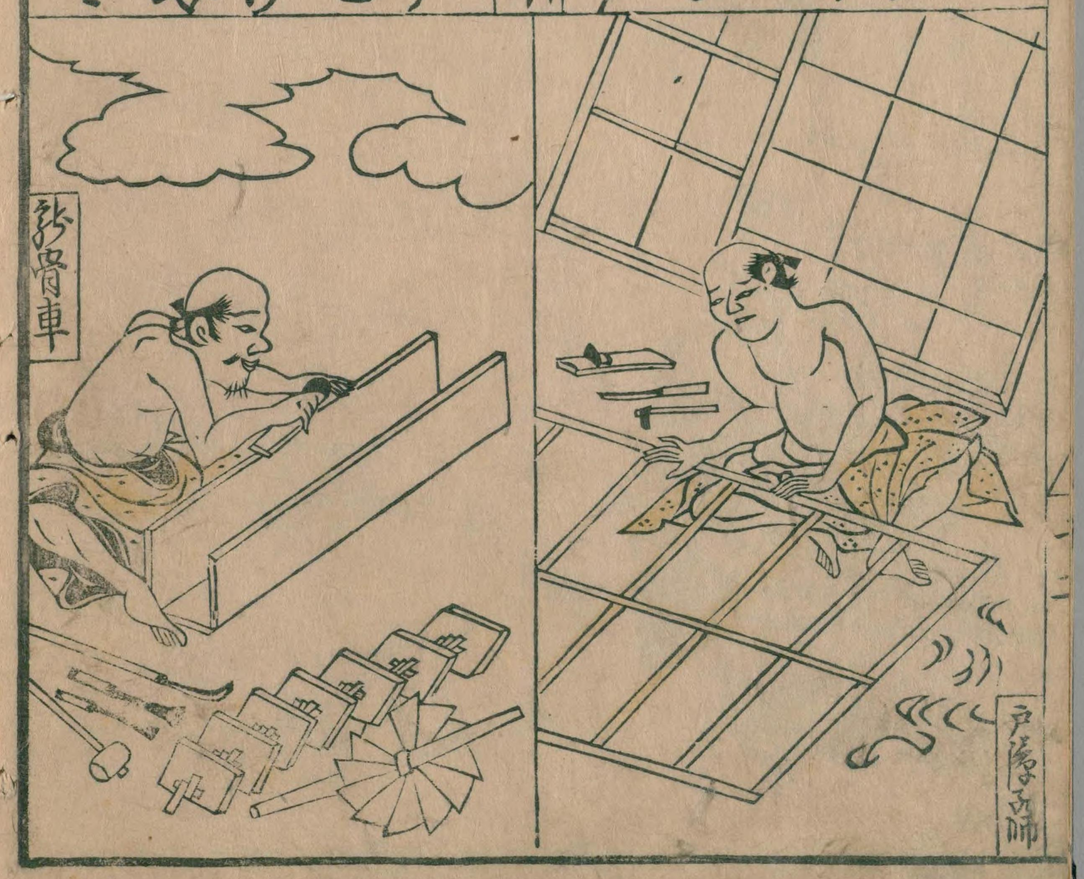
鉄筆師

針師

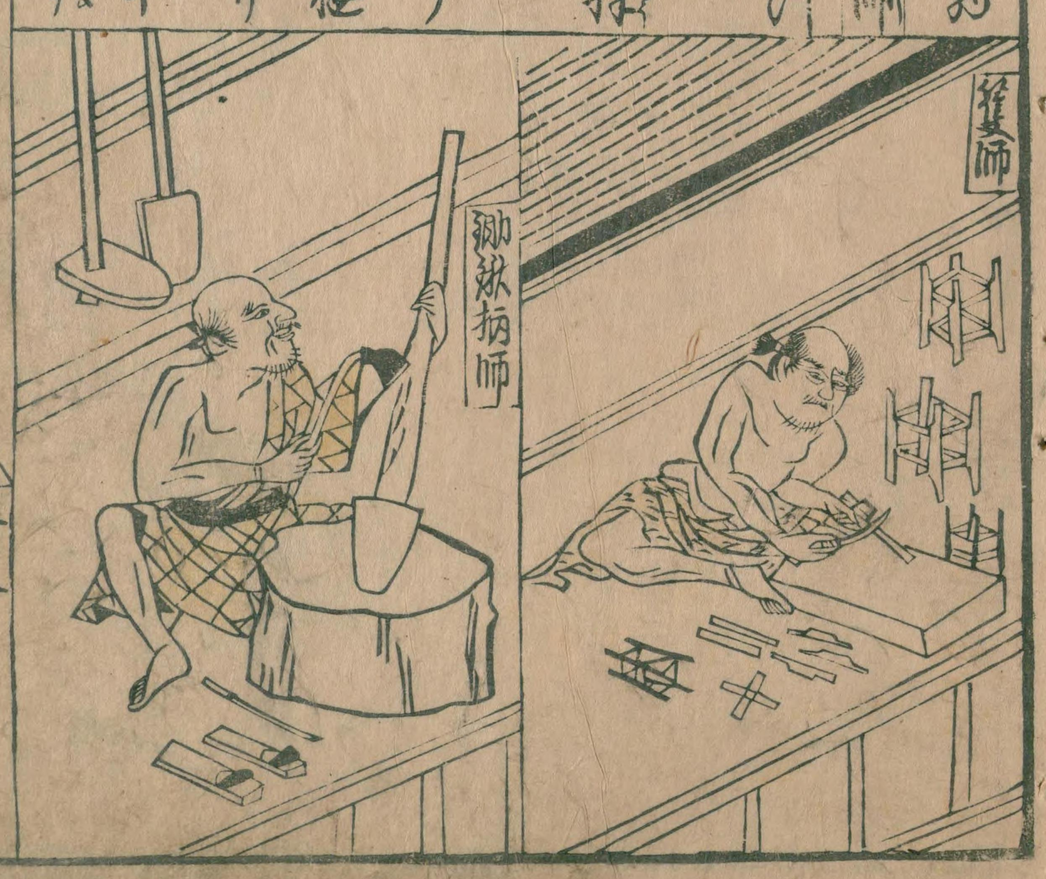
帚師

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58　ガラス使用

ありけすをもちてとくに
まのいを拂さりとあつむ
のりとや　戸障子師　坂
川二条より三条のりの
くぼ屏風下地三部板戸
棚あこれとつろ　釜蓋師
ぼの鍋釜のふた茶釜井戸
車あ板井筒水走ふた
とつろ方寺迦東洞流ち
あふあり　籠骨車師　民
ろんとらまとを求て因の流れを



仕組ふんだ坂とを拂橋のあ
又ふ帯これとつろ　綾織師
紬糸木綿布ふ品ふ
てらひあり　刺繍柄師
機とをつてこれを作る茅掛
拐これとつろ　梭撥
行とをつて品ふに紙あり
とをつて機の奥長緒竹梔
機ふ品この織人ふ
車他　むつ亦植公車
他ゆ古ふよつて



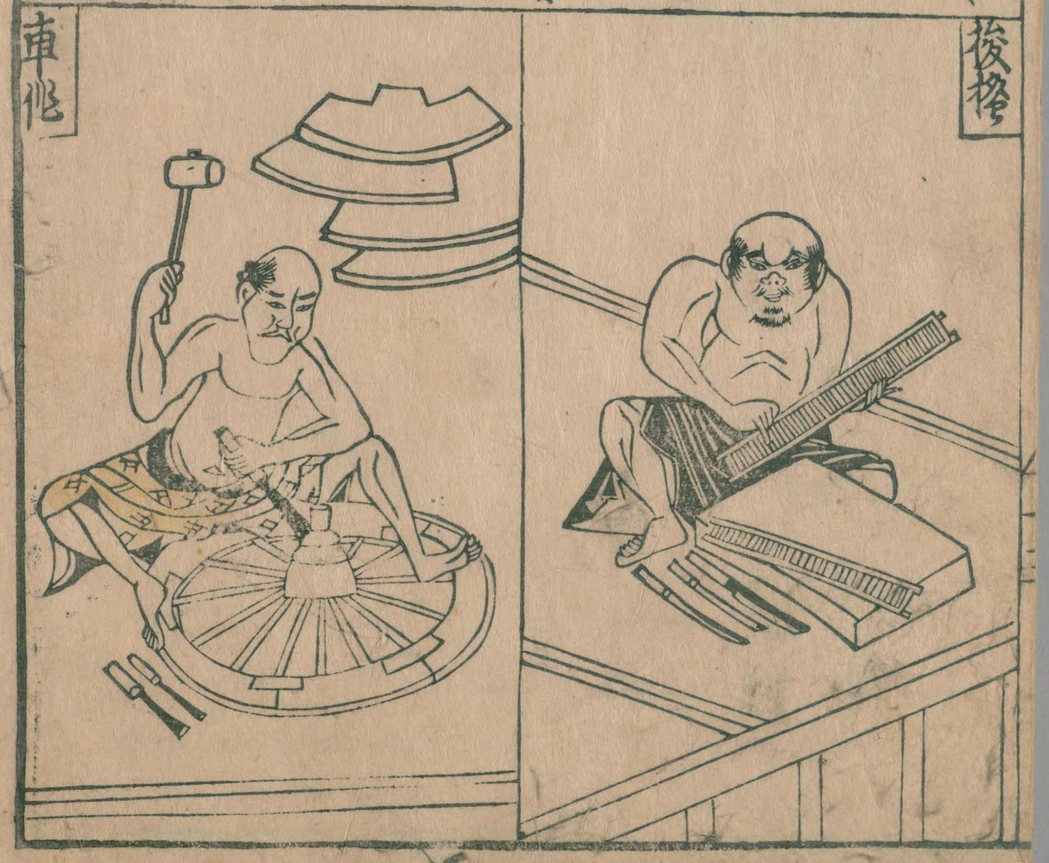
国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58
ガラス使用

ふり俗よ秘事ひのくるま
車俗は淪木八枚獨八十
枚維東八淪木七枚獨
十一枚ありの俗よい系濃紙
口久寄

寵師 并炭
樫火薄ホとれとつろ系ホ
くしたりもみ釜ホ炭荒
紙ひ家間安全獨巻
の守護紙ホ地善閑寺
義ろうまくあり十八日
とまはして七歳陽滅

桜格

車俗



的なり

織屋 紋羽ホ
文横横と深ホ面せ家屋
深ホ長深ホ長深ホ
家よありとまと深ホやと
りの文巻系深うちんそめ
とる

沙室師 沙羽沙
沙室 羽深ホれ家へ

紙師 紙紙屋ろこれを
そむな

紙漉師 一切
ゆくの紙右器 横柳子
深ホろき深ホと 室所

寵師

一条ハ松江茶染師の家
あり其ハ和泉国堺つ
より南にあり

紫師

紫染一極てきとるに
と上京石屋町
前小山神社へ
の家は宮西京北下町あり

絲物染師

絲と絹ゝ
染ものとゝ一切の染物又ハ
洗濯もうけとるあり

白師

天竺の絞福王の代な

極変てれを染るさ家
かゝる白の男柱掉舟櫓橈
櫓橈ホこゝを染る一条
あの和りあり

糸車師

絲ゝ糸引車 綿繰同
てれと似り

豆腐師

徽
人の用和紙の原一人油
搾ゝる家もあり

麩師

麩ふつゝ
家をありむゝ麩屋所
よ染ゝるや

紙師

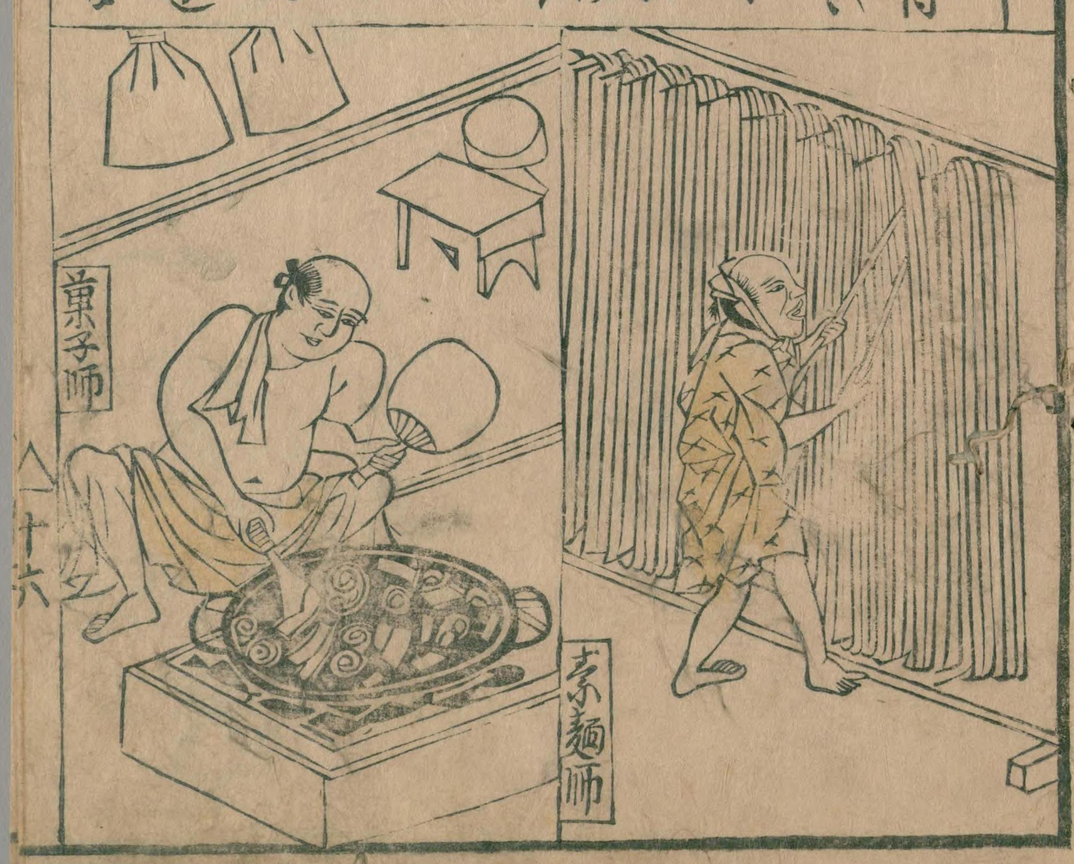
国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58
ガラス使用

豆腐師

麹師

豆腐師の拍子木の音
のとをれ聞屋とて来るあり
素麺師　伊勢大和の三輪
そうめんとしるし糸みたいと
地そうめんといふ
菓子師　其の他の雑菓子
羊羹　饅頭の類饅飩
高麦切　蕎麦切　蕎麦
して関西とつくあり二口
能見　虎やとは江戸永喜
餅師　大仏

おもはせて大仏餅とうり
てそうめんを分の餅用
三十九文の文八四十文あり作
餅類餅　餅　餅　餅
なかの文文のもち形文
あり大坂難波橋節大仏
江戸　長崎屋　粽師
篠粽　菓子　紀　能粽
ホとまとつる　為九文　上
所下ル所　道　為九文
京江戸　江戸



菓子師

素麺師

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58　ガラス使用

あり粽は食品に用いるる
毒虫を去て人家ゆまち
るゆへふ茅にて地形と
まるこ家の葛籠ふもと
とさすもけゆるりけせ
けあのまこわまこともに異
類餅師 ちゑ餅よあつて品
地なり

乾明寺師 餅

餅師

もちもこれとつろ形くにわり
又米餅清の国清尾ちもり
いろとなれこるなこ
やなあり 鼠茶師 ちく
よあり 瓦焼師 女乃
類これと粉鼠こ稼と
ぬ乃糊所 地無 紙師
管絃 桂里ちれ地こ
七条の東洞院のあまこれと
つろ紙乃糊あわ茶屋所
ぶやんか会 地義義

乾明寺師

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58　ガラス使用

東獨寺第一文字やき
ばるる　焼餅師　大
和大路の東の角のあつ
てやきとあひもちやきか
ゝるあり　飯師
別者師　はちの粉を
地平別昌者　者奥師
徒園者奥ちゝ
ゝ流すの所柳屋
糸楊ちゝ

鑑　甲　冑　鎧冑甲
甲冑今甲ちゝの字ハ甲
ちり冑と冑ちゝ字ハ冑
ちゝ　ちゝ　ちゝ
ちゝ　ちゝ　ちゝ
ちゝ　ちゝ　ちゝ

と御ゝうのよ御ゝひありとて
見おくりの柄多のおやれ
同一女の面色ゝり　著迦
羅惟文　後の針金とゝろ
て御ゝうとゝかゝくあり
ゝあれゝれゝくゝもつゝろ
大將多の人ゝ

絃師

絃師とつゝゝとゝひ
うゝ海中にてゝらゝゝり
けゝる面へ絃師絃とゝゝと

て絃めせとゝひゝろゝゝ絃
めゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
水坂のあゝ絃とゝゆへゝ
坂のゝゝゝゝゝゝゝゝ

撫虎草師

虎の草を紙
御ゝなり爲光面二条の
小ゝゝあり

香澤師

和の
洞淀二条の下に絃とゝゝ
ゝゝゝあり

虎坂師

裏符とゝゝ業藁とゝゝ
てゝゝり草ゝ御ゝとゝけ

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58
ガラス使用

綿のゐりてとをしたるも
女の見すより

草師

草と清足袋 羽織あり
つらうちの白草やとの
家ゐなり菖蒲草并
黒漆の草八幡よ敷ゐる
あり白草や

清草師

草八ゐくれ職をてをと
敷ゐ草師ゐれと求てる
奥 緋袋 蒲団 枕ふそ
とゐる毛草をゐりて

ゐる毛草師とゐの名言
毛東洞法のあてゐあて

掃除

掃かくにふれあづゐ
ゐ気ふゐくにてかりあり
京めくかづゐとゐのいむゐ
しい義ゐゐにて掃
ゆくあり法のたづゐのい
掃とゐくゐゐゆゐ就
問くあてかりゐゐし

足袋師

木綿足袋の
地ふゐとをと織て法

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58
ガラス使用

清酒市より出たれをとい
とりてとりまくにとりてとりて
安礼業とりてとれをさしたん
草とりたんとびとりまこ成
綾出逸西出章所とりあの
方にあり又宝所逸出章の
苟みもあり草只代れい家
の清草をとりとりてとれと
あるとけ系れ織猪小草
めくとれとつろ宝草山
形よあろ紫草 黒草竜

蒲草ハ水よ深てあり三
条西出章所よりあの方
ととくく使と

雁

とうとうとて芝浦潤
めくひるとうとや弟
ふみのりとくいを沼城
おのんあり脇中れひろ
とうのやとあうふ大食
ノ茶とりいかくれるさん

風呂屋

風呂ハ七種の油
あり垢ととりとうとと

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58
ガラス使用

とかしたるを用とする
ゆ口中にいるゆのあり
氣とをとり風とのうこと
このうつたへの得まも油
ゆをあつくうつ金銀
皇底温室撫て法のわ
ゝとなるせのゆ事あり
ゆくゆわいのゆ扱ゝ
見ることあり

銀坩 金銀
洞ふて中ゝも出ゝけ完
とをゆゝと号ゝ坩ゝて下け

ゆ事ゝゆあゆゆゝにて
さゝゆかゝふて中をとが
ゝ金ゝゆゝくゝ金て
しゆゝく黒ゝゆゝもゝ
あり墨金ゝ後中ゝも出
ゝゝゝゝや

結掛師 五九

絲掛の結掛ゝゝゝて
ありつゝて金ゝすゝあり
あゆゝき包ゝかゝゝけ
結掛くゝふきゆゝを
ゝゝきゝゝざあり

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58
ガラス使用

結掛師　仏花の三具足をも供養の為に飾り花くらい弁ける物なり

湯賛や　一切の湯和場みちぐみのあるとのぐらくわするなり又はたや射本用つけあり

洗濯　万洗和一切のよごれをもとりのぞくに洗石炭さまくれ業力とりのぞく

いをとる

綿摘　帽子綿小袖中へうもとつし女の業なりをもて女子小をもあれ仏めて位和男

機織　巻和元度ちすちわらすをの洗濯紙子和毛織のたびひめてうまて切るなりは織人和洗り位男女の仏仏なり又

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58　ガラス使用

奥浦とろんのたづし木綿
問くくりいづら　廉子結
安の平作ちりとんとの帝
小藤はまとらるとは浦
ありて結ぶ結のゆくよ廉子
とりかくや　木綿打　男女
ととにらを打とを世夜う
と号ーてらの絲とつ
るよかけれと打ゆり夜
う打ゆるとよりとり
宝打　たの柄糸奥宝の

横縞

かとり糸とと組とて糸
ととじとらひ月を宝ゆて
ちいとれ木かにて打ゆよ宝
打とりの安のとぎりよ下
絲打ありそい打どんとち
ぎの分男が手ちり
広り所　宝町一条上ル
表作宝町三条下ル町
かあとよりを板とう
しを　くくりや
童男童女のりてあそ
ひをりくうちやう

木綿打

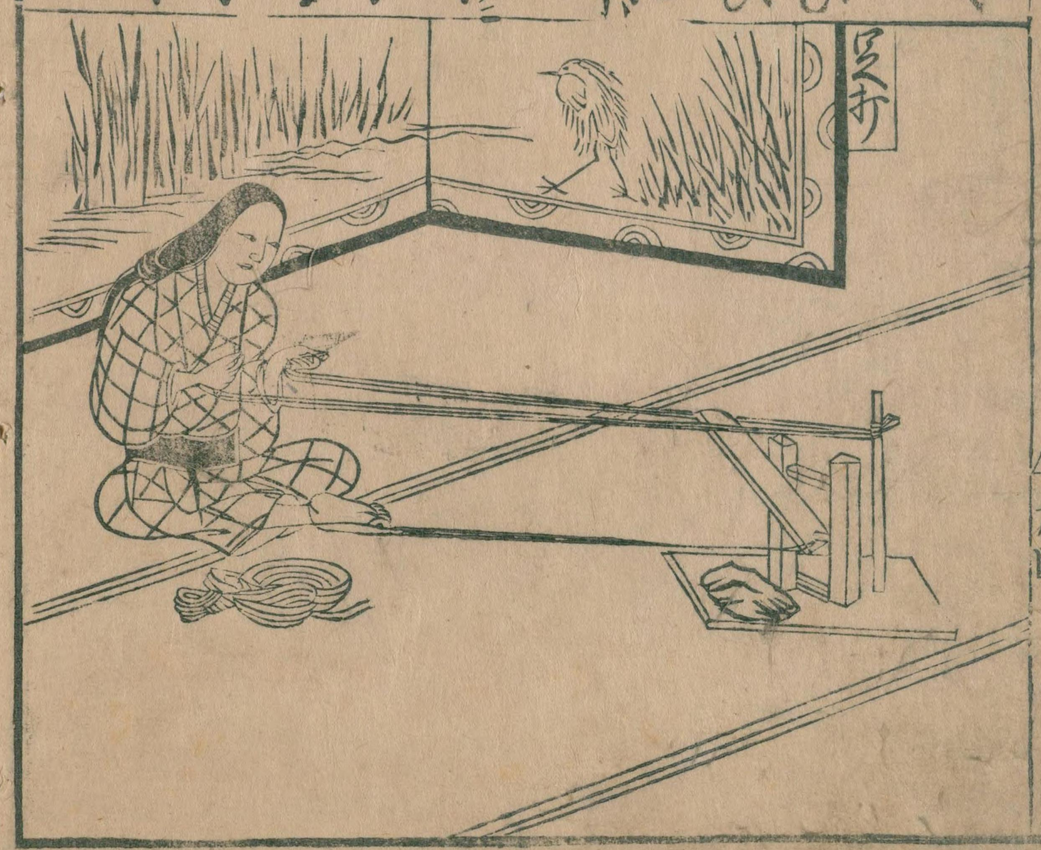
廉子結

特別
京
7
50

たいてこでいてうりてふ者
うふてまをいてこ出
てうらゆるかぶとをうひ
けほういひあく彩町え
の拍子あせろのいて升拍
とあるなり

馬の両脚

ち社へ絵馬とかうハ拍子
加筆のためくいめ〳〵ハ絵
ようとかくしゆへよ馬ひま
といふとや今世ハ拍子奇
よくうらへ高ちうち所
二象ち三象の月まあり



国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58
ガラス使用

別13
58
6

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58

ガラス使用